

## 事例 7 アオモリトドマツ林の再生に向けた取組

(東北森林管理局 山形森林管理署)



- 山形県山形市(やまがたし) 葉木沢(はのきさわ)国有林
- (左) 自生苗の移植試験(令和3年8月)
- (右) 蔵王第三小学校児童への現地説明(令和3年7月)

平成25年秋頃から、蔵王地域の地蔵山山頂付近で、トウヒツツリヒメハマキ(蛾)の幼虫とトドマツノキクイムシによる食害が広がり、多くのアオモリトドマツが枯死しました。被害を受けた区域周辺は樹氷ができることで有名な地域でもあり、東北森林管理局では関係機関と連携してアオモリトドマツ林の再生に向けた取組を進めています。

山形森林管理署では、令和3年6月～10月の間に3回にわたり、被害の少ない標高1,300～1,400m付近で採取したアオモリトドマツの自生苗(樹高約20～30cm)を、被害の著しい標高1,600m付近へ植栽しました。なお、令和元年度からこれまでに試験移植した自生苗82本は、概ね順調に生育しています。

また、地元小学校からの要請を受け、地域学習の一環としてアオモリトドマツ林再生の現状と課題について説明したところ、児童からは「木が1年で1cmしか伸びないと聞いて驚いた。」等の感想がありました。

アオモリトドマツの再生に向けては、成林に至るまでの保育等の手法が確立しておらず研究機関による調査研究が進められているところであり、引き続き関係機関と連携しつつ取組を進めていきます。